

一般会計決算総括質疑通告書

令和5年9月4日

議会議長様

会派名 政

議員氏名 野口俊彦

質疑事項	質 疑 要 旨	指 定 答 弁 者
1. 決算に対する評価は	(1) 窪田町長は、就任後1年目の町政運営となった。令和4年度は、第6次杉戸町総合振興計画に掲げた8つの未来像の実現に向けた取組を推進するとともに、人口減少に歯止めをかける取組及びウィズコロナ・アフターコロナを視野に入れた対策などを基本に取り組むとしていた。そこで、各種施策に対する評価を伺う。 また、施策を推進してきた上で、問題・課題となった点は何か。 (2) 新型コロナウイルス感染症や物価の高騰、さらには、扶助費の増加などの影響により、歳出の見通しを立てることが困難な状況であったと考えられる。そこで、予算編成どおりの事業執行ができたのか伺う。 また、大幅に予算執行増となった事業及びその要因は何か。	町長 副町長 担当課長

9月4日 午前・午後11時45分 受理

質疑事項	質 疑 要 旨	指 定 答 弁 者
2. 町税収納状況は	令和4年度の町税収納状況について、以下、伺う。 (1) 自主財源の根幹となる町税の収入済額は、58億7,046万9,683円となり、前年度比1億1,117万476円、1.93%の増加となった。課税対象となる令和3年においても、新型コロナウイルス感染症の影響は、地域経済に打撃を与えた年であると認識しているところである。そこで、新型コロナウイルス感染症が税収に与えた影響をどのように分析しているのか。 (2) 町税の収納率は、前年度に引き続き現年課税分において、全ての税目で99%を上回っている。この収納率をどのように分析し、評価しているのか。 (3) 収入未済額は、前年度比570万6,414円、8.74%の増額となっているが、この点については、どのように分析しているのか。 また、税の公平負担の原則からも、早期解消に努めるべきと考えるが、見解は。	町長 副町長 担当課長
3. 不用額の対応策は	令和4年度の不用額は、8億2,260万5,197円で、前年度の5億7,968万5,761円に対し、2億4,291万9,436円の増額となり、予算現額の5%にも及んでいる。不用額は年々増加する傾向にあり、特に民生費、衛生費、土木費において多いようである。結果として、不用額が多くなってしまった原因をどのように分析し、検証しているのか。 また、限りある財源を有効かつ効率的に活用するため、不用額が生じた際には積極的に減額補正に努め、住民の福祉の向上のために振り替えるべきと考えるが、見解は。	町長 副町長 担当課長